

## 魚の目 タコ

よく聞く足のトラブルで、外反母趾(がいはんぼし)、内反小趾(ないはんしょうし)、ウオノメ、タコ、イボ、みずむし、扁平足、O脚などは、場合によっては、一生付き合うこととなる持病となります。



タコ・ウオノメ

足裏にできる「タコ」と「魚の目」、これを全く別々のものと考えている人が多いのですが、実はこれらができる原因「力学的メカニズム」と角質層(タコ)が厚くなるという点では同じなのです。

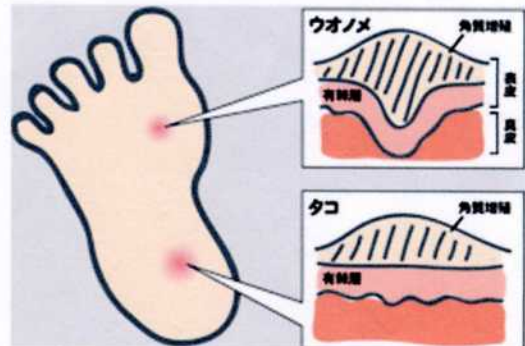
魚の目がタコと異なる点はただひとつ角質層(タコ)の中心に芯があり、その芯は皮膚深く入り込んでいるので体重が乗ると痛むということです。

タコは主に足裏の指の付け根付近に分厚い角質層を作り、これが歩く時異物となって痛みを感じる人が多くいます。

正式にはタコのことを「中足骨胼胝腫」と呼んでいます。

タコや魚の目ができている人は身体の土台となる足裏が不安定だという証拠でもるのです。

そのため、ひざや腰、首のどこかに慢性痛があったり、首の異常が隠れた原因となって起る頭痛、肩こり、めまい、不整脈などが伴う自律神経失調症や生活習慣病になっている人が多いのです。



逆から見るとよく分かります。

これらの症状で長年苦しんでいる人の足裏を確認すると、高い割合でタコや魚の目を見つけることができるはずです。特に、タコができている人は足裏が不安定になり歪んでいるのです。

この歪みに比例して、「ひざや腰、首にも歪みが起ってしまう」のです。

更に、人間は2本足で歩くため、歩行時にその歪んだところに過剰な衝撃波とねじれ波を繰り返し伝えてしまうのです。

日常の生活環境の中で破壊のエネルギーが反復し蓄積されて限界を超えた時、原因のはっきりしない慢性病や自律神経失調症、更には生活習慣病まで発生させてしまうのです。

ですから、タコや魚の目がある人は早めのケア、つまり足裏から全身のバランスを整えておくことが必要なのです。



## タコの位置と病気との関係

### (1) 足裏の指の付け根

『親指側にタコができている人は腰を痛めます。』

#### その理由:

親指は足裏の中でも体を安定させるために一番大きな役割をしています。その親指に踏ん張る力がなくなると、それを補おうとしてももや腰の筋肉に余分な負担がかかり『腰の歪みに過剰な衝撃波やねじれ波が繰り返され』慢性的な腰痛やぎっくり腰、ヘルニア、分離症すべり症、脊椎狭窄症などを発生させてしまうのです。

### (2) 『3指を中心に足裏の指の付け根の

中央部にタコができている人は首を痛めます』

#### その理由:

指のつけ根が逆アーチ(舟底形)になっているために重心が真中に片寄り過ぎて足裏が極端に不安定になってしまいます。この不安定を補おうとして身体の上部にある頭を支える『首』に最も負担が加わってしまうのです。

つまり、脊椎の最上部にある頸椎一番と頭蓋骨の接続部に「過剰な衝撃波やねじれ波が繰り返され」、首に異変が起るのです。首に異変が起ると、頭痛・肩こり・めまい・不整脈・うつ・パニック症などを伴った自律神経失調症や生活習慣病を発症させてしまうのです。

足裏の指の付け根の中央部にタコができている人は首を痛める



### (3) 「足裏の指の付け根の小指側に

タコができている人は胃や腸が悪くなります」

#### その理由:

小指側のタコは歩行時に体が揺れたり、足先が外方向へ流れ易くなる証拠です。この悪い歩き方による体の揺れやねじれは背中を歪ませ、「背中の歪みに過剰な衝撃波やねじれ波が繰り返される」ため、背中やおなかの筋肉が著しく緊張し、胃の働きが衰えたり腸のぜん動運動が弱くなり、ひどい便秘や下痢になったりします。更に、首も痛めていると自律神経失調症を併発し、便秘と下痢を繰り返してしまいます。

かない鍼灸接骨院

<http://www.8897060.com>

(西宮院) 0798(41)3460 (尼崎院) 06(6499)2450